

「月刊」

# キャッチ ピース

# 26

通巻105号 / 1994. 11

定価●100円

自衛隊の海外派兵を食い止め、大幅軍縮を！  
米軍基地を撤去しよう！  
反核運動を継続し、核廃絶を！  
憲法9条を世界に！  
市民による平和政策を提起しよう！  
草の根の国際共同作業をすすめよう！

つぎに  
この思いを  
つたえてゆくのは  
あなたです。



## さだ子と千羽づる

絵本を通して平和を考える会

SHANTI (フェリス女学院大学学生有志)

発行所：オーロラ自由アトリエ ☎03(3792)9651

- 軍事費削減を求める  
ハガキを今年も！
- 今こそ非核法を！運動  
が始まった
- やはり！米軍機墜落  
—低空飛行を止めよう（高知）
- 小平の町に騒音が降る  
—自衛隊機監視人インタビュー
- 沖縄から：宝珠山発言その後
- 議会で「安保」見直しの動き
- 原潜が核疑惑の「本命」に浮上

|             |             |          |                      |
|-------------|-------------|----------|----------------------|
| ★維持会員（月間）   | ★参加会員（月間）   | ★通信会員    | 脱軍備ネットワーク<br>キャッチピース |
| 個人 1口 1000円 | 個人 1口 500円  | 年間 3000円 |                      |
| 団体 1口 2000円 | 団体 1口 1000円 |          |                      |

<会費は本紙購読料をふくみます>

## あなたも会員・読者に！

連絡事務所 ● 〒223 横浜市港北区箕輪町3-3-1  
TEL 045(563)5101  
FAX 045(563)9907  
郵便振替 ● 東京6-136148 □ 座名「キャッチピース」

# 今こそ 非核法を！

## いよいよ運動が スタート

### ●具体的運動 方針決まる

七月十八日に「今こそ非核法を！」の訴えが、宇都宮徳馬さん、本島等長崎市長、タレントの黒柳徹子さん、YWCA会長の江尻美穂子さん、作家の林京子さん、小田実さんなど二十二名の連名で出されました。

その後、このうちの一人である前法政大学教授西田勝さんの事務所を連絡所として、呼びかけ人・賛同人のご参加を要請する行動が全国的に展開されています。

八月、九月、十月と遅々としてではありませんが、手紙や電話で呼びかけをするなかで、吉永小百合さん、長洲一二神奈川県知事をはじめとして続々と共賛の輪が広がり、十一月四日現在、呼びかけ人九一名、賛同人一七〇名の方々がこの運動に参加されてきています。

そこでこの際、組織的な運動体を作り、運動の目標に向けた活動を展開するために呼びかけ人・賛同人合同の第一回会議が、東京都中野区の勤労福祉センターで開かれました。

### 新年には署名がスタート

それぞれに忙しい時間を割いて二四名の方が参集され、西田勝さんのあいさつを皮切りに梅林宏道さんによる経過報告と、「非核法をめぐる今日の動き」について報告があり、運動の方法と組織・財政の検討がなされました。以下この会議で決定した事項を報告し、全国のみなさまにこの運動への積極的な参加

加をお願いします。

### 運動の展開に関して

- 一 呼びかけ人・賛同人を今年末までに合計五〇〇名を目標として拡大する。(都・府・県ごとに約一〇〇名以上を目標)
- 二 この運動は政党・政派・宗教を越えた運動とする。
- 三 運動の輪を広げるために、別途、労働界、宗教界、芸術関係の指導者に訴え、それぞれの分野での運動の拡大をお願いする。
- 四 国会議員の皆さんには、国会内でこの非核法成立を目指す超党派の議員連盟の結成をお願いする。

五 今年末までに拡大した呼びかけ人・賛同人によって、九五年一月より全国署名運動を展開する。

六 署名の内容は、七月に呼びかけた文書に掲載したとおり、

(1) 日本は核兵器を作らない、持たない、持ち込ませない。日本を厳密な非核兵器地帯とする。

(2) 日本は核兵器に依存した安全保障を求めない。

(3) 「公開・民主・自主」の原則のもとに核分裂物質を厳重に管理規制する。

(4) 核兵器と戦争のない世界の実現のために率先して努力する。

(5) この法律を実行するために行政機関を作る。

この五項目を中心とした簡潔なものにする。署名活動をするためのパンフレットを作る。またワッペン・シールを作る。

八 十一月、十二月、三月の地方議会の定例会で、非核法制定に関する意見書、決議書の採択運動に取り組む。そのために非核・みどりの議員ネットワークが担当して、モデル文を作る。

九 九五年五月頃に新聞広告を全呼びかけ人・賛同人の名を入れて出す。

十 九五年五月の憲法記念の日のあとに中央

範囲内で自立・独自の運営活動をしていく。

二 東京に全体事務局を置く。当面の場所は次のとおりとする。

※東京都中野区中野五三三二二二一三〇一 ☎〇三(五三四三)一八二〇

(FAX共用) 西田勝平和研究室気付け

三 署名の訴え文や用紙作成のためのワーキンググループを、梅林宏道さんをキャップとして東京、神奈川、千葉、埼玉から選出した方々で形成する。

### 財政について

一 全体事務局からの呼びかけで参加された呼びかけ人の会費五〇〇円、賛同人の会費二〇〇円の収入は全体事務局の運営にあてる。

二 各地区連絡センターで広げた呼びかけ人の会費五〇〇円のうち、半額は全体事務局で大きなイベントを行う。著名な呼びかけ人の発言と、全政党代表の出席を求める。

### 組織について

一 前述の運動展開のために、各県、市、町、村単位(それ以下の職場を含む小単位も可)で地方連絡センターを作り、署名の趣旨の



ピーター・グレイ著「核兵器の拡散防止について」(「生きられる世界教育基金」刊)の表紙から。

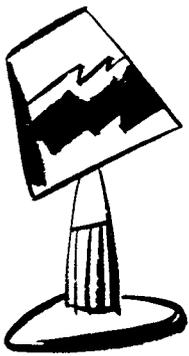
工藤泰治 非核・みどりの議員  
ネットワーク代表

局に納付していただき、あとの半額と賛同人二〇〇〇円の全額は地区センターの会計とする。

今こそ非核法を！

広島・長崎の被爆五〇周年にあたり、日本を非核地帯にすることに、世界に對してはじめて核廃絶の強い働きかけが行えると思います。力を合わせてこの運動の成功を目指そうではありませんか。

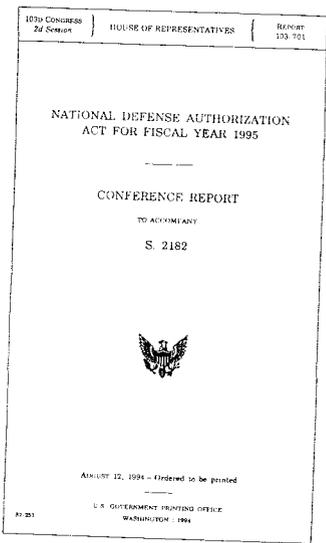
あなたも呼びかけ人、賛同人に加わって下さい。同封のみどりの色のリーフレットの中に返信ハガキと振替用紙が入っていますので、それをご利用ください。すでに、呼びかけ人・賛同人になっている方は、これで友人、知人に働きかけてください。



# アメリカ議会が

# 日米安保の検討を始めた

梅林宏道



## 「95米国防認可法」 第一三二五項

アメリカの国防認可法（国防権限法）というのは、毎年その年の国防予算を議会が認可する法律である。単に用途と金額を定めるだけではなくて、予算の認可にともなう決議事項なども法律の中に含まれる。

一〇月一日に始まる95米会計年度の国防認可法の第一三二五項は、冷戦後の日米安保関

係と日本の反基地運動にとって見逃すことのない重要なものになった。余り長くないので、まず、その項の全文を正確に訳しておこう。

### 第一三二五項 合衆国と日本の安全保障関係についての報告

(a) 要求される報告——国防長官は合衆国と日本に関する安全保障関係について、一九九五年三月一日までに議会に報告書を提出し

なければならない。

(b) 報告の内容——本項で要求される報告は次のことを含まなければならない。

- ① 合衆国が日本との関係において達成そうとしている安全保障目的の評価。
- ② アジア太平洋地域における合衆国と日本に対する脅威、危険、恐れ分析。
- ③ 日本に関する、また太平洋における安全保障目的を達成するための、合衆国の戦略についての説明。
- ④ 日本に関する、また太平洋における合衆国の安全保障目的を達成する際に果たす、日米安保条約の役割の評価。
- ⑤ 合衆国と日本の安全保障目的を達成するために、安全保障に関する地域的な討論や会議や枠組みが果たす役割の分析。
- ⑥ 合衆国と日本が、沖繩を含む日本全土における土地問題、訓練問題など共同のインフラストラクチャー問題について話し合うプロセスについての考察。
- ⑦ 過去一〇年の間に、日本に移管された沖繩を含む在日米軍施設についての記述。
- ⑧ 日本に合衆国軍隊を駐留させるために米軍が負う費用に対して、日本が果たしている貢献についての記述。
- ⑨ 沖繩を含む在日米軍についての、次のような情報を含む概観。

(A) 合衆国人員の数と配置場所  
(B) 合衆国軍の主要部隊の数と大きさ  
と配置場所

(C) 合衆国軍施設の見積りと、軍事的、経済的、環境面を含む利用状況の記述

(D) 共同のインフラストラクチャー問題に関する、日米両政府間の協議の現状についての説明

(E) 合衆国の訓練活動の記述

議会のこの要求にしたがって、国防省がどの程度の報告書を作成しようとしているのか、判断するのはむずかしい。数ページの報告書でお茶を濁すことも可能である。一〇〇ページの越す報告書になる可能性もある。ここは待ちの姿勢ではなく、国防省がフル・レポートを作成せざるを得ないような状況を、私たちが作る必要があるのではないだろうか。その理由を説明したい。

## 市民と自治体の動きを

アメリカの議会が、この項目を国防認可法に盛り込んだ経過は、沖繩からの訴えに端を発している。

沖繩では、本島の面積の二〇％を米軍基地に占拠されているという異常な状態が続いて

きた。この現状を変えることが、島民の主権と自治を取り戻すためにどうしても必要な条件だとしても過言ではないだろう。

知事をはじめとして、多くの市長、議員、市民団体が、ここ数年アメリカの市民や議会にこの問題を訴える努力をしてきた。とりわけ沖繩出身の市民の多いハワイ出身の議員を通して米議会に働きかけてきた努力が実ったと伝えられている。

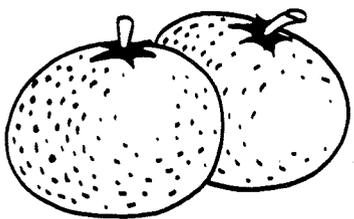
しかし、最初に下院に提案されたときの項目(第二八五四項)は、もっと直接的に沖繩の基地の現状の点検を要求する内容であった。国防長官に求める報告内容には、「基地返還を求める沖繩県知事の要請に応じてとりうる肯定的内容」という項目もあった。この下院案に対して上院で異論が出され、両院協議会(「コンフェレンス」と呼ばれる)で修正された結果が、前述した第一三二五項である。

したがって本来、沖繩基地の状況の改善を目的として、国防長官に報告書作成を命じたものであったが、最終案を見る限りその目的をうかがうことはできない。

むしろ、議会が要求した内容は、冷戦後の日米安保条約の役割についての検討を大きな目的とし、その観点から基地とその運用状況の問題点を明らかにしようとするものになっている。

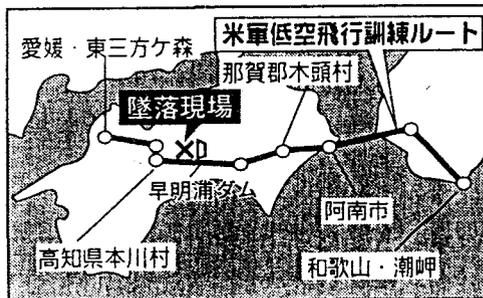
国防省の現在の考え方から推定すれば、国防省は日米安保体制の現状維持の必要性を強調した報告書を作成することはまちがいないと思われる。

このような状況下で、日本の市民や自治体が、米議会の軍備委員長や国防長官に、基地の被害、そして基地の縮小や撤去を求める声を直接伝えることが大きな意味をもっている。私たちは自治体が日頃基地撤去のための努力をしていないと不満に感じることが多い。とくに、私たちの目からは、自治体の言葉は立派だが行動を伴わないと不満に思われる場合がある。しかし、この際、自治体の基本姿勢の積極面を伝えることが意味を持つ。これまで、それが米軍や米議会に伝わるチャンネルは皆無であった。いま、市民と自治体が米議会に直接働きかける行動が求められているのではないだろうか。市民を代表して、議員が動けばもっと有意義にちがいない。



# 地位協定の改正を

東條雅紀  
米軍機の低空飛行訓練に反対する  
徳島県民行動委員会



米軍空母インディペンデンスの艦載機・A6イントルーダーが十月十四日、低空飛行訓練中に高知県土佐町の早明浦ダム約十キロ上流に墜落した。米軍が頻りに訓練を行い始めた一九八九年夏以来、我々は「必ず事故が起きる」と訓練の中止を求め続けたが、「やはり」との思いを胸に墜落現場へと走り、事故原因や問題点を独自調査した。

墜落現場は徳島市から吉野川に沿って一三〇キロ遡り、濁水で全国的に有名になった早明浦ダムの上流。吉野川南岸はすでに警察によって封鎖され、地元住民、マスコミは北岸（大川村側）の道路上から眺めるだけで、道路から下のダム湖面へは立ち入り厳禁。

それでも南岸には機体破片、パラシュート、ヘルメット、さらに搭乗者の足、胴などの肉片が散乱し、墜落時の凄まじさをかいま見せた。現場上流約一キロには学校、役場などがあり、日本側に人的被害が及ばなかったことは不幸中の幸といわざるをえない。

日米安保条約に基づく地位協定などで、米軍機単独事故の場合、警察が現場保全の協力をし、調査と機体回収は米軍がすることとなっている。捜索活動は岩国基地（山口県）から八りで送り込まれた米軍兵が行い、地元の

本山署員や県警機動隊は事故現場南岸前後約四キロの道路封鎖や北岸の交通整理に従事。「道から下へは降りないように」と繰り返すだけで、警官自らも「私にも全然わからん」と自重きみで、主権無視を痛感。

事故現場から下流五〇メートルに住む住民二人の目撃証言は「三〇メートル程度の高さで、右翼を下に左翼を上に乗らせた。ごつい飛びかたしよんなど思っていたら、ドーンという音がした。機首は下がっていた」というもの。現場手前三〇メートル下流に岸から岸へ作業用ワイヤーケーブル（直径三〇ミリ）が渡してある。そのワイヤーが強い力で上流側に三センチほどづれている跡が、固定しているコンクリート土台にあった。我々は、「このワイヤーに接触したのでは」と推測している。

このワイヤーケーブルは、ダム湖の濁り度を測定するためのもので、濁水のために水面から三〇メートルの高さにある。一九八七年八月三日に奈良県十津川では米軍機がバルブ材荷運搬用ワイヤー（直径二二ミリ）を切断して飛び去った事件が起きている。

高知県では九二年二〇四回、九三年三〇六回、今年は八九回（九月末）と飛行回数が増加していた。高度も「橋の下を飛んだ」「パ

# 米軍機隊墜落

（高知）

イロットと目があった」という地元住民の証言から推測すると、米軍がいう「一五〇から三〇〇メートル」どころではない。起こるべくして起こった墜落事故である。

我々は、①訓練の中止②墜落原因の公表③地位協定の見直し④国内法の遵守⑤米軍基地の縮小・撤去を求めて総理、外務省などへの抗議と中止要請文書の送付（十七日）、県知事への中止要請（十八日）、千人の抗議集会（二一日）、首相官邸、外務省、防衛庁への抗議と要請（二五日）などを繰り広げた。

五十嵐官房長官は「成果が国民の目に見えるよう米側と交渉したい」、河野外務大臣からは「確かに地位協定はあるが、安全のルールがある。米軍が剣を研ぐために国民が夜も眠れないということにはならない」などの答弁が返ってきたが、訓練の中止については消極的だった。

中止を求める行動は、飛行直下自治体の首長による抗議や、議会での訓練中止意見書が続々と採択された。徳島県知事の外務省へ訪れての直接抗議（九〇年に続き二度目）や高知県知事の首相への要請、さらに、徳島県議会での意見書（九一年以来六度目）は「訓練の法的根拠となっている日米地位協定の改定に早急に取り組むとともに、低空飛行の即時中止と事故原因の徹底究明および結果の報告」

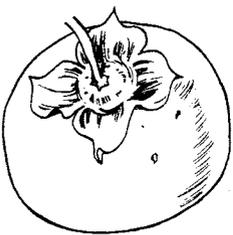
を求めた強いものとなった。

しかし、米軍が「訓練の当面中止」を発表した十六日、普段に比べて高度は高めたことが米軍機の飛行が確認され、さらに十一月七日には墜落現場上空一〇〇メートルを、訓練の再開を意図した調査飛行が六度に渡って行われ、住民の感情を逆なでした。

四国を飛ぶ低空飛行ルートはオレンジルート（旧レッドルート）と呼ばれており、厚木基地（神奈川県）から和歌山・徳島・高知・愛媛・岩国基地（山口県）へと飛ぶルート。空母インディペンデンスや厚木や岩国のNLP（夜間離発着訓練）と密接に関連し、また、国際情勢とも密接に関連する。

徳島県では中東湾岸戦争直前の一九九一年には九三回、朝鮮民主主義人民共和国の核問題が浮上した九二年には一六六回と低空飛行訓練の頻度が増加した。

低空飛行訓練を中止させるためには、息長く、しつこく、運動を続けていく。今後の課題として被害を受ける（基地も含めて）全国ネットワークの必要性を感じている。



河野外務大臣に  
訓練中止を求め  
要請（10月25日）

# インタビュー 小平の町に 騒音が降る

尾崎一郎さん

小平市騒音対策ネットワーク代表

聞き手・まとめ

松戸志朗（編集部）



戦車ヘリAH13（94年3月15日、尾崎さん撮影）

▲哀愁の町には霧が降るのだが、小平の町に降るのは騒音だった。八七年晩秋、武蔵野の上空に自衛隊機の飛来が急激に増えた。耐えがたい騒音と、肉眼でさえ明らかでないニアミスの危険を降りまきながら、時には日に百回を越える飛行に疑問を持った一人の市民が、観測記録を取り続けている。自宅の屋根の上へと上り、ビデオカメラを使い、終日の調査を幾度も行って来た。仲間と共に、行政への申し入れも行った。古くから小平に住み、デザインの仕事をしながら「基地監視人」であり続ける尾崎さんは、ジェフ・ベックのギターが好きだと語る若々しい人だった。

◆この「調査」を始められたきっかけはどのようなことからでしたか。

尾崎 八七年の十一月ころから、急に飛行機の飛来と騒音が激しくなりました。はじめは、立川、入間の基地祭の関係かと思いましたが、それがいつまでも続く。とにかく、うるさくてたまらない。市の環境課に苦情を言っても、ちがいが明かない。これは一体何が起きているんだろうと自分で調査を始めたんです。何がどれだけ飛んでいるのか。米軍機なのか自衛隊機なのか民間機なのか。

機種のごとは何も知らないまま、翌八八年に自宅庭から初めての調査をしました。する

と、迷彩色や日の丸がわかる飛行機が約五〇機。これは自衛隊機ではないのか。市を通して問い合わせたところ、横田にある防衛施設局の解答が、「こちらの調べでは五、六機飛んだだけである、米軍機が民間機ではないか」とのことでした。ところが資料を調べると、その時見た飛行機が全部載っているんですね。やはり自衛隊機だったんです。それ以来、ビデオを使った観測を続けるようになりました。

## 騒音、そしてニアミス

●騒音はやはり、大変なものです。

尾崎 大変ですね。市の環境課の調査では、入間基地のC1ジェット輸送機で七七ホーン、T33ジェット練習機で八二ホーン、立川基地のHU1ヘリが七六ホーンなど、飛行直下では地下鉄の車内並みに達していますし、ピーク平均でも七〇ホーンほどと、鉄道沿線並みの騒音が降り注いでいることが判っています。小平の日常の暗騒音が五〇ホーンくらいですから、これは飛び抜けた騒々しさです。ともかく家の窓や天井が振動するくらいですし、近所の小学校でも先生の授業が聞こえなくなるなど、市民からの苦情が相次いでいます。

●騒音だけでなく、飛行の頻度が多いことに伴ってニアミスの危険も大きいと聞い

ています。

尾崎 今年の二月二十三日に終日調査を行った結果を参考資料として市議会に提出したんですが、この日は八時七分から十九時三分までで、百二十二回の飛行がありました。（米軍機、民間機は一〇機のみで、八八機がHU1ヘリなど立川基地関係、二三機がYS11訓練機など入間基地関係）前年二月十八日の終日調査では百六回。その前の九二年十月二十二日の調べでは百四回を記録しています。

## 冷淡な基地、行政

「空の過密ダイヤ」です。東京の住宅地の真上で、勝手にコースを線引きして住民に無断で飛行訓練をしているわけです。ニアミスだって騒音だって当然ありますよね。このあたりの上空で立川、入間両基地の飛行訓練コースが重なっているためだと思いますが、高度差が百メートルくらいですか。百メートルって距離は肉眼で見ると、相当近いですよ。「危ない！」と感じます。今年十月に撮ったビデオだと、対戦車ヘリ約十機編隊の真上をC1輸送機が通過しています。

●行政や基地の側の対応はどのようなものでしょうか。

尾崎 昨年の三月、二百名近くの署名を集め

て、市議会に現状改善を求める陳情をしました。これを受けて市の環境課が立川、入間基地に申し入れを行っています。しかし、この辺りは基地周辺外で、法律がないわけですから、なかなか改善はされません。このようにある程度の対応はするものの、いま一つ議会も腰が重いです。

基地の側の対応は、ひどいものです。昨秋から今春にかけて、立川基地関係のヘリの飛来が増加したことが前出の二月二十三日の調査結果で裏付けられたので、立川基地に問い合わせると、「記録を調べても飛行回数が急増した事実はない。六年前あたりから比べてむしろ減っている」と言うんです。それは事実と違う、と食い下がったら、ガシヤンと電話を切られましたね。入間基地の場合も同じようでした。「離発着記録は約一年で破棄してしまおうので、分からない」と言われました。いずれにせよ、自分たちは自衛隊の飛行計画に従っているだけだと、責任があるのは、幕僚幹部や上層部であると、そう言いますね。

## 「中身の濃い」訓練？

●この飛行回数多きは一体なにが原因であると推察されますか。

尾崎 はっきりこうだとは、まだ分かりませ

ん。ただ、基地の側の言い分、発着回数も保有台数も変わっていないと言っているのがもし真実だとすれば、考えられることがあります。くるくる回っているんですね、飛行コースが入間のYSなどとくに分かり易いんですが、基地を出て、埼玉を回って、国分寺、小平辺りへと言うルートを一時間に数回、繰り返しています。飛行コースを増やす。当然訓練時間も増える。そうすることによって、同じ発着回数・保有台数でも「中身の濃い」訓練をおこなっているのではないかと。いずれにせよ防衛費の増大と関連していると思います。

●今後、小平騒音対策ネットワークとして、あるいは尾崎さん個人としての活動のご予定がありましたらお聞かせください。

尾崎 今までの経過を踏まえた上で、もう一度署名を集めて、防衛庁に対して申し入れを行いたいと考えています。基地の側が、われわれはただの窓口であって責任はないと言わねば、責任があるのは幕僚幹部や上層部であると、言うのなら、そこまで行ってみたいと。いずれにせよ、軍隊と言うものは身勝手な、突然何をしてくるか分からない存在であって、決して市民のためのものではないのだと、強く感じています。

●ありがとうございました。今後の活躍を期待しています。

# 沖繩から

沖繩がかわれば、アジア・太平洋がかわる

## 報告④

「沖繩から」  
「オキナワボイス」  
編集委員

伊波洋一

(沖繩中部地区事務所長)

〒901-22  
沖繩県宜野湾市志真志517-1  
沖繩キリスト教平和センター気付け  
TEL (098) 898-6628  
FAX (098) 897-6963  
郵便監督 鹿見島 2-11249

## 宝珠山防衛施設庁長官発言その後

沖繩戦後五十年に向けて  
始まっている日米の協議

沖繩県民に米軍基地との「共生・共存」を求めた宝珠山防衛施設庁長官発言は、九月九日の発言から連日県民各層からの抗議を受け、最終的に約一ヵ月後の十月五日の衆院代表質問の場で与党を代表した沖繩県選出の上原康助社会党副委員長の抗議と追求に、玉沢防衛庁長官と村山首相が不適切な宝珠山長官発言

を撤回し、陳謝して一応決着した。宝珠山長官も同日記者会見を行い、不適切な発言を撤回し「沖繩住民の意志に反して取得建設された米軍基地が、沖繩県民に与えている影響と制約は極めて大きい」との認識を表明した。「共生・共存」発言と経過については、前号に詳しい)

### 宝珠山施設長官が沖繩基地問題で渡米

宝珠山長官は、発言撤回後十一月二日に三日間の日程で訪米し、来年の戦後五十年に向けた沖繩の米軍基地問題三事案や神奈川県逗子市の池子米軍家族住宅問題等について、米国防総省や米軍高官達と会談し、帰国後の記者会見では、在沖米軍基地の整理・統合など「沖繩問題の解決に向け、日米双方が努力することによって一致した」と述べた。

沖繩基地問題三事案とは、①読谷補助飛行場のバラシユート降下訓練中止と早期返還、②那覇港湾施設の早期返還、③県道一〇四号越え実弾砲撃演習の廃止、である。

これら三事案は、沖繩県が第一順位で早急な解決を求めているものであるが、三事案が解決しても、沖繩の米軍基地問題の多くは依然として残る。

例えば、嘉手納基地や普天間基地の軍用機

の数多くの墜落事故や住民への爆音被害、頻繁に起こる米軍演習による山火事、沖繩本島の二〇%を占める米軍基地や広大な演習空域や制限水域など、大部分の問題が戦後五〇年でも解決されないまま沖繩県民に押しつけられることになる。

### 米軍基地維持のため連携する日米政府

米軍と自衛隊の緊密化に連動するように、日米両政府の防衛高官達の相互訪問が頻繁に行なわれており、その都度、東アジアでの米軍駐留と言及され米側からは日本での米軍駐留の重要性が繰り返し表明されている。

現在進行している日米両政府の軍事的連携は、在日米軍基地の一層の機能強化と米軍の防衛戦略により多くの日本政府の加担を強いるものになっている。

沖繩から海兵隊や米空軍が参加した今年十一月の日米共同統合実働演習「キーン・エツジ九五」では、「貸し付け」の形で初めて航空燃料を日本側が米軍に供給したが、米軍が称賛する今回の訓練費用サポート(約一億円)は返却されないだろう。

沖繩の演習過密を軽減するための部隊輸送費用などを含めて、このような直接的な米軍支援が拡大されようとしている。

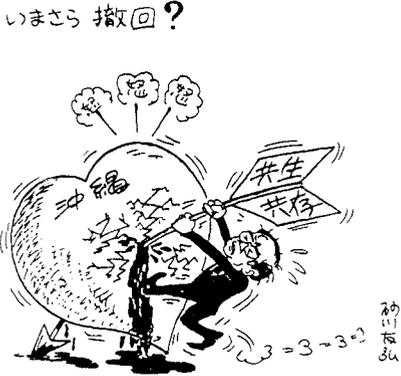
十一月十七日に、池子米軍住宅建設問題が返子市長、神奈川県知事、防衛施設庁長官の三者で合意された。マスコミ各社は緑地保全問題で三者が円満に和解したとして全面解決を全国報道したが、日本が冷戦後の世界で米空母戦艦団の駐留を継続しようとする事への疑問が一つも出なかったことは、現在の日本の軍拡志向を象徴している。

同日、来日中のナイ米国防次官補(地域安全保障担当)は、東アジアでの米軍削減を中止することを明らかにした。

このように日米の軍事的緊密化は、冷戦終了後の世界的軍縮が東アジアで進まない要因の一つとなっていると言えよう。

梅林宏道氏が『世界』十二月号に寄稿した論文「在日米軍は質的変貌を遂げつつある」は、このような現状理解のため必読である。論文は米国が来年までに行なおうとしている「日米安保見直し」について、常に米軍優位で拡大運用されてきた地位協定や日米安保の固定化の懸念を示し、市民運動サイドも含めて日米安保の役割を日本でも再点検することの重要性を指摘している。

私達は、日米安保の下で米国の言うままに日本政府が国民の税金を米軍のために支出し続けることは是非を、冷戦後の世界の軍縮を尺度にして問わなければならない。



沖繩タイムス「時事漫評」  
1994年10月6日

### 今月のトピックス

#### 頻発する米軍演習被害と軍用機墜落

広大な米軍基地の存在は、米軍の事件・事故を必然的に多発させているが、十月、十一月も沖繩各地で米軍演習が行なわれ演習に起因する住民への被害や山林火災、墜落事故が多発している。以下に最近の例を示す。

十月十八日～二十日 金武町で今年八回目の県道封鎖実弾砲撃演習、発射数二四〇発。

十月二十六日～十一月四日 米空母インディペンデンス艦載機約三十機が嘉手納基地で訓練。爆音被害が悪化。二十六日は深夜(午前零時～同五時)に四十一回の爆音。

十月三十一日～十一月二日 金武町で九回目

県道封鎖実弾砲撃演習、発射数一二五発)。

十一月二日 金武町のキャンブ・ハンセン演習場でえい光弾による森林火災(八時間半、九十六路焼失)

十一月四日 二日に続いて金武町のキャンブ・ハンセン 演習場で迫撃砲弾による森林火災(十三時間、二十四路焼失)

十一月七日 空母キティホークの艦載機約十五機が、嘉手納基地で四五〇発爆音や一ト爆弾などの実弾装備訓練を連日実施、近隣市町村で爆音被害。十九日現在滞在中。

十一月十三日 沖繩本島西海上の出砂島射撃場で別の射撃場の演習許可をもらった米海兵隊のCH-53Eヘリ三機が日曜日に禁止されている射撃演習を実施。出漁していた漁民が危険を避けて操業を見合わせた。

十一月十四日 フィリピンから普天間基地に向かう米海兵隊のCH-53Eヘリがエンジントラブルで宮古島の空港に緊急着陸。

十一月十七日 名護市のキャンブ・シユワプで訓練中の米海兵隊UH-1N中型ヘリが墜落。五名死傷。住民地域から四五〇発。

この一年米軍機の墜落が頻発している。昨年十二月にFA-18戦闘機二機が近海で墜落、今年四月基地内にF-15戦闘機とCH-46ヘリが相次いで墜落、八月にはハリヤー戦闘機が粟国島近くに墜落、そして今回。

# 核能力をすすめて

## 米艦船が手に入れるもの



新倉裕史

(非核市民宣言運動ヨコスカ)

◆米国防省が9月22日に核政策の基本姿勢の見直し「ニュークリア・ポストチャー・レビュー(NPR)」を発表した。日本に関係することでは、原潜を除くすべての空母と水上艦から核能力そのものをなくす、という内容が含まれている。ということも、平和資料協同組合がワシントンでの調査の結果を発表した。

◇つまり、有事搭載の可能性もなくなるといふことか。

◆発表の内容はそういうことだ。

◇そんなに重要なことが、日本でなぜ報道されなかったのだろうか。

◆いや、新聞報道はあった。たとえば朝日は9月24日、ワシントンからの記事を載せている。「核戦略見直し計画」という言葉もさ

ゃんと使われていて、扱いても小さくはなかった。ただ、記事は「核能力の配備は停止する」という内容で、核能力そのものを無くすとは書いてない。で、ブッシュ声明との違いが読みとれなかった。まあ、しかし、言われるまで誰も気づかなかったというのには本当だ。

◇しかし、自分の実感にそって正直に言えば、現れた結果と運動の役割の関係はよく見えない。僕らの運動はなにをなしたのか。◆もちろん、これはアメリカのお家の情があつての決定で、運動そのものが作り出した結果というのには強引かもしれない。ただお家の事情は、様々なファクターによって作り出されていて、地球規模のアメリカの核に対する異議申し立ても間違いなくそのうちのひとつだった。ささやかではあるが、僕らの運動も、そこにつながってはいったのだから。

◆ふたつの相反する思いがぶつかりあっている(笑)。

◇もう少し、具体的に言つてよ。

◆「ヨコスカを非核の街に」を、運動の柱のひとつにしてきたわけだから、原潜への有事搭載は残るにしても、他の艦船から核搭載の可能性が消えたとなれば、これは「よろこばしい」ことであることは間違いない。

## 読者から

惑」と戦わなければならなかった。ニュージーランドのように国家単位で米艦船を止めてしまったところもある。

の入港時にはついに反対とは言わなかった。

◆核搭載可能艦船の入港時に、横須賀市や神奈川県が行っていた外務省への「非核の確認要請」も、「戦い」のひとつというわけか。

◆この10月に大阪港へキティホークの随伴艦のフリゲート艦が入港したが、大阪市の問い合わせに、米軍は「核は積んでいない」と回答したという報道があった(10・21朝日大阪本社版)。事実とすれば、核の有無を明らかにしない政策変わったわけで、いよいよ「非核でどうだ」の時代に入ったというかんじだ。「戦争」から「紛争」へと、アメリカの軍事戦略が変わっている。その中で、大きな核を手放すことで、動き易さを獲得しようとする「部分的非核政策」がでてきた。さあ、どうするか、だ。

◆(ま)さんのライブに行ってきました。四人のホーンセッションの中でも、派手さはないが、一番いい音を出すSaxでした。コツコツとキャッチピースの編集をする(ま)さんらしいニコニコ顔でしたよ。ただ平凡にサラリーマンしている自分に比べ夢をもっている(ま)さんたちをうらやましく思います。「自分はこれでいいのか」といつも自問していますが、勇気がないのでしょいか。それとも人間なんて皆そんなものなのでしょうか。(小林宏光/横浜市)

◆NPT体系を強め、朝鮮半島の反核平和、安全を保障するため最近米国と朝鮮民主主義人民共和国間で基本合意に達した内容はアジアと世界の平和と安全のため歴史的意義をもつものだと確信しています。ご多忙だと思えますが、編集部で日本の反核平和と関連の深い上記の問題について取り扱って下されば幸いです。(成在龍/団体役員/東京都)

◆いつもキャッチピースお送りくださりありがとうございます。実は送付を止めていたかどうか、でも読み応えがあるし...かとい

## 原子力艦入港情報

(67)

94年10月16日～11月21日

S級=原子力潜水艦ステーション級  
L級=原子力潜水艦ロサンゼルス級

- ◆10月22日 09:23原潜ウイリアム・H・ベイツ(S級)ホワイトビーチに入港。
- ◇同日 09:42原潜ウイリアム・H・ベイツ(S級)ホワイトビーチを出港。
- ◆11月9日 13:57原潜ヒューストン(L級)横須賀に入港。
- ◇11月12日 10:04原潜ヒューストン(L級)横須賀を出港。
- ◆同日 13:37原子力巡洋艦カリフォルニア(カリフォルニア級)横須賀に入港。
- ◇11月14日 07:53原子力巡洋艦カリフォルニア(カリフォルニア級)横須賀を出港。
- ◆同日 13:54原潜ソルトレイクシティ(L級)横須賀に入港。
- ◇11月15日 10:00原潜ソルトレイクシティ(L級)横須賀を出港。

●1994年1月1日から11月21日の各地への原子力艦入港回数は

|                 |              |
|-----------------|--------------|
| 横須賀             | 30回(うち原潜24回) |
| 佐世保             | 13回(うち原潜12回) |
| ホワイトビーチ(沖縄・勝連町) | 14回(うち原潜12回) |
| 合計              | 57回(うち原潜48回) |

# 会計報告

(94.10.22~94.11.25)

## [収入]

|          |         |
|----------|---------|
| ○前月からの繰越 | 21,661  |
| ○今月の収入   | 131,000 |
| 会費収入     | 89,000  |
| 維持団体     | 24,000  |
| 維持個人     | 12,000  |
| 参加団体     | 0       |
| 参加個人     | 32,000  |
| 通信会員     | 21,000  |
| カンパ収入    | 42,000  |
| 資料収入*    | 0       |

## [支出]

|           |         |
|-----------|---------|
| ●今月の支出    | 169,437 |
| 事務所代(11月) | 35,000  |
| 水道光熱費     | 6,230   |
| 電話・FAX費   | 10,669  |
| 郵送費       | 58,432  |
| 文具、備品     | 6,863   |
| 印刷・コピー代   | 50,063  |
| 行動費**     | 0       |
| 郵便振替等手数料  | 1,060   |
| 雑費        | 1,120   |
| ●次月への繰越   | -16,776 |

\*平和資料協同組合(準)の資料収入は、別会計とします。

\*\*行動費は行動プロジェクト毎の独立採算となっているため、それにあてはまらない収支のみが、この欄に計上されます。

さまざまのことに加入、整理しなければ僅かな年五〇万余の年金で死ぬまで働かなければならない身となった今、とても無理……と思索しているうちに日が経ってしまいました。やっぱり止めるには惜しい。他のことを整理することにしました。とりあえず今回は賛助金のみ送付しました。会費は後日送付します。

(植木悦子/家事手伝い/明石市)

♥脱欧入亜の時代です。日本人がアジアの人々からのようなつきあいをすべきか。各国の人々から十分によく聞いたほうが良い、と常々思っています。どうして自衛隊が海外に行ってしまうのか? いっそう日本人は世界の人々に嫌われてしまう。暗くなってしまう今



日この頃です。(荒巻克司/志木市)

♥戦後しばらくして警察予備隊ができました。今まで警察で足りていたのに何で予備隊が必要なのか理解に苦しみました。ややあって、それが自衛隊となり戦車、飛行機、軍艦を持つようになり、世界第二の軍国になってしまいました。戦にやぶれ平和国家を憲法で誓ったのに、いつの間にかまた大きな国費を軍備に使っています。これを節約して国民の福祉充実に使っていただきたい。

(久保秀吉/八七才・無職/和歌山県有田郡)

## 月刊キャッチピース

(月刊トマ喰い虫改題)  
No. 26 (通巻105号)

発行●月刊「キャッチピース」刊行委員会  
発行所●〒223 横浜市港北区箕輪町3-3-1

☎●045(563)5101  
FAX●045(563)9907  
郵便振替●00160-7-136148 キャッチピース

発行人●梅林宏道  
編集長●田巻一彦(今号は山中悦子が代行)  
製作責任者●山中悦子  
頒布責任者●梅林宏道  
定価●100円(通信会員年間3000円)

## 編集室から

●報告の通り、赤字になってしまいました。会費納入と冬期カンパを是非お願いします。

●「読者カード」の同封は年四回(三ヶ月に一度)と致します。ご了承下さい。

●「思いやり予算」で米軍家族住宅が建つ逗子の池子。例の宝珠山防衛施設庁長官、国と逗子市との和解(!?)の日に言ってくれたね「規模縮小に同意してくれた米軍に感謝の気持ちでいっぱい」ナンダ、ナンダ、ナンダ! 今月の「事務所への坂道情報」は、赤や黄色の落ち葉を踏みしめながら……です。(や)

●今日はA・アイラーの命日。小難しいことを言わず、あの「うたー」を聞きたい。(ま)